

## 見直し（案）



# みじらしゃタウンプロジェクト

「みじらしゃ」＝おもしろい、楽しい

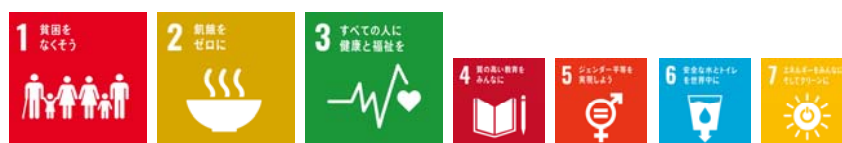
### 【プロジェクト内容】

高齢者等の住宅確保が難しい人（住宅確保要配慮者）が、入居を断られることなく安心して住宅を借りることができる環境を整えるために、居住支援協議会を立ち上げ、官民一体となって空き家をマッチングさせるための仕組みづくりを行います。物件所有者の貸したいけれど、「家賃滞納の不安（金銭的なリスク）」「認知症などで近所とトラブルが起きないかの不安（心理的・物理的なリスク）」「孤独死が起きないかの不安（死後のリスク）」などを居住支援協議会等で緩和する取組を行います。また、住宅確保要配慮者の地域での活躍の場や仲間づくり、生活支援を行います。



### 【未来の暮らし】

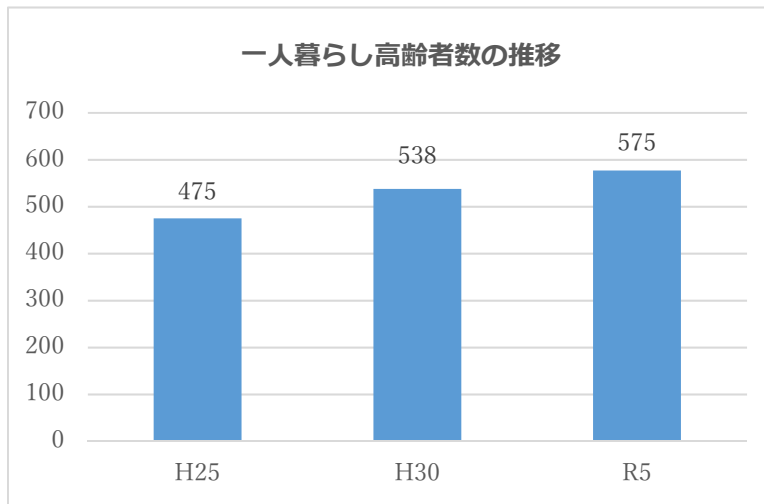
空き家を活用した、みじらしゃハウスができました。みじらしゃハウスは、和泊町居住支援協議会が中心となって、借りたい人と貸したい人が相互に安心して賃貸できる環境が整っています。賃貸契約の作成や身元保証等の不安が解消され、所有していた家を貸しやすくなりました。空き家バンクに掲載された一部の住宅がセーフティーネット登録住宅やセーフティーネット専用住宅として登録されており、高齢者等でも安心して借りることができます。入居者については見守りや相談など担当支援者が訪問し、字の長寿会の活動やサロン等にも参加できるよう孤立を防ぐ取組を併せて提供しています。



# 見直し（案）

## 【課題】

町営住宅入居希望者には住宅確保要配慮者が多いが供給数には限りがあります。また、住宅確保要配慮者は、孤独死・残置物・家賃滞納への不安、保証人問題などの懸念から、民間賃貸住宅を借りづらい傾向があります。物件所有者が空き家を貸出したいと考えていても、貸出しにおける契約等の専門的知見の不足に加え、改修費用の工面が心理的・経済的な課題となっています。



和泊町における65歳以上の  
一人暮らしの人数

（令和6年7月）

男性：270名

女性：305名

合計：575名

## 【メリット】

- ・保証人がいない、高齢・障害などで賃貸住宅を借りにくい人が、居住支援法人のサポートで入居しやすくなります。また、「居住支援」には、単なる住まいの提供にとどまらず、見守り、安否確認、生活相談、就労支援など生活の質を高めるための広範囲な支援が含まれ、住宅確保要配慮者が安心して住宅を確保することができます。
- ・物件所有者についてはセーフティネット住宅への登録などにより、物件の改修費用の補助金や、家賃債務保証サービスの利用など、制度上のメリットを受けられ、家賃滞納リスクや、入居者の死亡後の残置物処理の負担が軽減されます。

